



マーインフア
馬櫻花 (シャクナゲ)



《小坡の誕生日》 老舎

(三) お正月

世界じゅうの友達へ！ 君たちは小^{シアオポー}坡からの年賀状を受け取ったことがあるかい？ 受け取ってはいないかもしれないけど、小坡は決して君たちのことを忘れてはいないよ。

小坡の父さんはお正月が来る前に、赤い紙に金色の字の書いてある年賀のカードをたくさん出した。小坡は妹に、年賀のカードを一枚と赤い封筒を一枚もらってきてくれるようにと頼んだ。封筒の左の上のほうには、小さな黄色いくちばしを上にした白い小鳥の絵が印刷してある。年賀のカードには金で「恭賀新年」という文字と小坡の父さんの名前が書いてある。

小坡は父さんの名前の上に黒い線を一本引いて消し、その横に「小坡」の二文

字を書いたが、筆に墨をつけすぎたので、「小坡」の二字の左右に二つの大きな黒いしみをつけてしまった。それでしみの形をいかして、小さなウサギの絵と亀の絵を描いた。そして兄さんの大坡に頼んで、小さな白い小鳥の絵のついた封筒に「全世界の友達へ」という字を書いてもらった。

小坡が使っている「全世界」とはどんな意味かということ、ちょっとみんなに教えてあげよう。そうなんだよ、小坡はいつも「世界というのはシンガポールだ」言っているけれど、この年賀状を書くときには、全世界の中には、実は太陽や月、天の川や星たちも含まれているんだよ！

太陽は熱いし月は冷たいし、星たちはとても小さく見えるけれど、ほんとうはその上には子供がいるんだ。——おじいさんやおばあさんがいるかどうかはわからないけれど。みんないつも夜空の星がダイヤモンドのようにキラキラ輝いているのを見たことがないかい？ どうして光るんだろう？ それはね、星の上で子供たちが爆竹を鳴らして遊んでいるからなんだよ。

時には夜にゴロゴロと雷が鳴る音が聞こえたり、ピカッと稲妻が走ることもありけど、怖がることはないし、母さんの胸に隠れなくてもいい。あれは星の上で子供たちが一斉に爆竹を鳴らしているんだから。麻雷子、二踢脚、地老鼠、マーライズ アルティージャオ ディーラオンシュ黄煙帶炮^①ホアンエンダイバオなどを一斉に鳴らすので、音も光も大きくなるんだ。

星の上の子供たちは大きな音でみんなを起こして、いっしょに楽しく遊びたいんだ。でもみんなは眠っていてもだいじょうぶ。星の上の子供たちはみんなの夢の中に入っていっしょに遊ぶのも好きだから。みんなは夢の中で、たくさんの小さなきれいな「光る目」を見たことはないかい？ 真っ白い羽を付けているものいるんだけど、そう、彼らは星から飛んできたんだよ。

小坡の年賀状はお正月の前に出されたんだけど、みんなは元旦には受け取れないかもしれない。小坡の年賀状は先に太陽か月に届けられるかもしれないし、

先に月に行ったかもしれないし、地球を一まわりするかもしれない。これはみんな、郵便屋さんがどのように配達して回るかにかかっているんだ。つまり、地球上を回って配達するとしても、先にアイルランドに行くかもしれないし、メキシコに行くかもしれない。まったくわからないんだ。

でも、みんながしんぼう強く待っていたら、そのうちにきっと届くはずだよ。もし空に飛行機が飛んでいるのを見かけたら、みんなでいっしょに、下に降りてきてくれと叫んでごらん。その飛行機は小坡^{シアオポー}の年賀状をのせて、月か星に届けるとちゅうかも知れないからね。

それからもう一つ。小坡の封筒には黄色いくちばしの白い小鳥が印刷されているけれど、切手は貼られていない。小坡は封筒の右上に、半分に切ったタバコ・カード^②を貼っただけなので、ひょっとしたら郵便局の人たちが配達してくれないかもしれない？ でも、これは大したことじゃないと思う。郵便局の人たちは、小坡のカードを配達しないような意地悪じゃないだろう。小坡の年賀のカードは全世界の子供たちにあてたものだ。郵便局の人にも子供がいるはずだ。彼らが自分の子供あての手紙を留めてくことができるだろうか？ だけど心配なのは、郵便配屋さんが先に自分の子供たちに手渡し、それを子供たちがうっかりしてお父さんに戻すのを忘れてしまうことだ。こうなったら小坡の年賀状はみんなの手には決して届かない。みんなは門の所で待っていて、郵便屋さんを見たら「小坡の手紙はないですか？」とか、「タバコのカードを貼った手紙はないですか？」と聞いてみてごらん。こうして郵便屋さんに声をかけておけば、小坡の年賀のカードを別のところに配達するのを忘れないだろう。

みんなは、小坡がどんなふうにお正月を過ごすのか、興味を持っているだろう？ ひょっとしたら小坡にプレゼントを送りたいけど、何を送ればいいかわからないのかもしれない。

わかった、それじゃ私が教えてあげよう。

シアオポー

小坡の住んでいるシンガポールというところには四季がなく、一年中暑い。常緑樹だって何だって、葉っぱが一年中ずっと緑色をしている（もし常緑樹とい
うのが何のことか分からなかったら『国語教科書』で探してごらん）。

花もいつも咲いていて虫も一年中ずっと鳴いている。小坡のふっくらとした足はいつも裸足はだしで、毎日アイスクリームを食べている。だから小坡がお正月を過ごすときも、天気はやっぱり暑いし、花もきれいに咲いているし、トンボはすいすい蝶々はひらひら飛んでいる。強い風も吹かないし雪も降らないし川も凍らない。

もし小坡にプレゼントを送るなら、そして、もし君が住んでいる所に雪があるなら、小さな缶に雪を詰めたのがいちばんいい。小坡に見せてあげてほしいんだ。小坡は雪を見たことがない。雪は一つ一つが小さな花びらのようで、空から落ちてくるのだと聞いたことがあった。でも小坡は雪が赤色だと思っている。

それはね、あるとき、結婚式で花婿さんと花嫁さんが外に出てきたら、大ぜいの人
が二階から赤い紙を細かくしたものを散らしているのを見たことがあるからなんだ。

小坡は「ああ、これがきっと雪なんだ！」と思った。それ以来、小坡は雪が赤色だと思
いこんでいるんだ。

センポー
小坡がこう言うから妹の仙坡も当然そのように信じている。母さんも広州人で雪を見た
ことがないから、雪が白なのか赤なのか、それとも豆の子葉のような緑色なのか、は
っきりと言えない。

小坡が見たことのあるもので、みんなが見たことのないものもあるかもしれない。た
とえば、みんなはバナナの木を見たことがあるかな？ 小坡の家の裏庭には何本もあ
って、今ちょうど長くて太いバナナの房をいっぱいにつけている。どの葉も緑で、
蓮はすの葉よりもっと緑色をしている。

みんなは首の後ろにこぶのある牛を見たことがあるかな？ サザエよりも大きなカタツムリを見たことがあるかな？……みんな、小坡シアオポーにプレゼントを送ってやってね。小坡はきっとお返しをするだろう。二匹の大きなカタツムリ（先に出角が出て後で頭の出るやつだ）を送ってくれるかもしれないし、絵を二枚描いてくれるかもしれない。小坡の絵はとても有名で、描くのもとてもはやい。でも時にはあわててバナナを青く描いたり、牛の足を三本に描くこともある。「ゆっくりやりなさい、急がなくていいよ」と君が言ってあげたら、小坡はきつときちんときれいに描くことができるだろう。

シンガポールには他の所と違って、いろいろな人がいる。顔の色で言うと、赤、黄、黒、白の違いがある。小坡がお正月を迎えるときは、この顔の色の違う人たちもお正月を迎えるので、とてもにぎやかだ。

赤い刺繍ししゅうの靴をはいた纏足てんそく③のおばあさんがいたり、洋服を着て腕を出している娘さんもいる。辮髪べんぱつ④を赤いひもで結んだおじいさんもいるし、模様のある腰布はだしを巻いた裸足の若者もいる。キラキラ光る宝石を鼻につけている女の人も、麦わら帽子をかぶって男の人と同じように働いている女の人もいる。

でもお正月がやってくると、みんなが笑ったり歌ったりしてお正月を過ごし、まるでこの世がひとつの家族のようだ。だれも怒らないし、だれも縁起の悪いことを言わない。だれもが新しい服を着て、お酒を飲み、肉を食べ、これまでの辛いことを忘れて、新しい希望の年を迎える。

キリスト教の教会の鐘はカーンカーンというメロディーを奏で、中国のお寺では木魚もくぎよや太鼓が鳴り、それらの音がきれいに遠くまで響いていく。菩薩ぼさつ様や神様にもお正月があるのかどうかは知らないが、きつとにっこりして、ここの人たちがこうして仲良く一年の最初の日を楽しんでいるのを見て、喜んでいられるに違いない。

虫や鳥は朝早くから新しい年を歓迎する歌を歌っていて、それはどの音楽よりも美しく聞こえる。花や草は芳^{かぐわ}しい露^{たま}の珠を身につけて、元旦の朝日を迎える。空には重苦しい黒い雲は一つもないし、寂しく取り残されている朝焼けを映す雲も一つもない。空は青々と澄みわたり、満面の笑みをたたえた太陽^{さき}を捧げ持っている。太陽の光の下では、色とりどりの旗やいろいろな形の灯籠が揺れて、美しい錦^{にしき}織りの世界を作りだしている。

小^{シア}坡^{オポー}のほうはどうかというと、この日は本当に忙しかった。鳥の声と共に起き、裏庭に行って虫や鳥に歌を歌って聞かせ、それから家に入って妹のおでこにキスをした。妹はまだ目を覚ましていなかったが、小さな唇には幸せ^えそうな笑みを浮かべていた。

妹を起こして新年のあいさつをし、それから二喜^{アルシー}を抱いてシャワーで洗ってやった。二喜というのはおでこに黄色いぶちが二つある白い子猫だ。

二喜を洗い終わると母さんのところに行き、一緒に買い物に行くしたくをした。お正月といっても、食べ物は買いに行かなければならない。気候がとても暑いので、食べ物を何日も置いておけないからだ。母さんは買い物にはいつも小坡を連れて行く。それは小坡がマレー語を話すことができ、品物を選ぶのも値切るのもじょうずだからだ。値切ってもまけてくれないときは、野菜売りや肉売りのおじさんたちの麦わら帽子を取り上げたり、自分のまるまるした指でおじさんたちの脇の下をくすぐったりする。するとおじさんたちは笑って安くしてくれるのだ。

市場で大きなカゴ一杯の買い物をすると、小坡は「よいしょ」と力を出してそれを頭の上に載せた（これはインド人のやり方をまねしたものだ）。重たくて、全身からとうもろこしの粒ほどの大きな汗ふきだした。家に着くとカゴを陳^{チェン}お婆さん（小坡の家のお手伝いさん）に渡した。陳お婆さんは一日十八時間寝ているのに、起きている時でも目が眠たそうにしている。でも今日は陳お婆さんもと

でも元気で、目もしっかり開いていて、目の玉も笑っているように見えた。

父さんも外出せずに、庭で草花の手入れをしていた。もぎ取った大きな緑色のバナナの房に、色とりどりの紙テープが付けられて広間の壁に掛けてある。とてもきれいだ。

兄さんがお金を全部使って爆竹を買って門の前で鳴らすと、妹は耳を手でふさぎながら、うるさくないようにして聞いていた。

シアオポー
小坡は母さんの仕事を手伝おうとして台所へ走っていったり、庭に走って父さんと一緒に草花の手入れをしていたが、爆竹の音が聞こえてくると急いで門の前に走って行って、兄さんが爆竹を鳴らすのを見物した。兄さんは小坡に手出しをさせない。小坡も無理におべっかを使ってまでやろうとは思わないので、妹の後ろに立って妹の耳をふさいでやった。

ああ、本当に忙しい！ 靴をはいていなくて良かった。はいていたらきっと靴底に大きな穴が開いたに違いない！

ご飯の時間になった。テーブルの上にはお皿やお碗がいっぱい並べられていた。小坡は足の指を折って数えたが、数えきれない。本当にたくさんだ。それに、きれいにきちんと並んでいる！ わあ！ 父さんがおもちゃを買ってきてくれた！ 妹にはおもちゃのコーヒーポットとカップのセット、小坡にはプラットホームとレールがついた汽車のセットだ。「お正月はやっぱりこうでなくっちゃ！」と、小坡は心の中で言った。

ご飯を食べ終わったが、たくさん余った。母さんは小坡と妹に、門の前に物乞いの人に来ていないか、見にいかせた。もし来ていたらわけてあげるつもりだった。母さんはとても心の優しい人なのだ。

父さんはお酒をいっぱい飲んで、竹のベッドに横になり、ぐっすり眠ってしまった。兄さんもいっぱい食べたので、動くのもめんどくさそうだ。アルシー 二喜は魚の

頭をくわえて庭に行き、そこでゆっくり食べている。^{シアオボー}小坡と妹は新しいおもち
ゃを持って門の外の^{マーインフア}馬桜花の木の下に座っていたが、あたたかい風が吹いてきて、
やっぱりだんだん眠くなってきた。

この時、あたりには何の物音もせず、空は晴れ渡っていた。鳥は緑の葉の蔭に
隠れて、小さい丸い目を閉じている。トンボも葉の先に止まって、透明で柔らかな
羽をだるそうに震わせていた。ヤシの木の大きくて長い緑の葉は、風に吹かれて
上になったり下になったり、左に行ったり右に行ったり、空中で揺れ動きなが
ら、まるで何かをささやき合っているようだ。ただ、蜂だけが忙しそうにあちこ
ちと飛び回っている。ブーン、ブーンという音を聞くと、さらに眠くなってくる。

風はだんだん弱くなり、門の上の旗がだらりと垂れ下がり、木の葉も下を向い
て眠り、シャクナゲの木に寄生している草も眠っているようだ。でも木の幹から
少し離れて空中にぶら下がっているのも、まるで子供が腕をだらんとベッドから
垂らして眠っているようだ。

馬は車を引かず牛も仕事を休んで、みんな木陰で半分目を閉じて横になってい
る。なんて静かで美しいんだろう！ 遠くから聞こえてくるニワトリの鳴き声が、
まったく音のないこの静けさをさらに深めているようだ。

なんて静かで美しいんだろう！ これが小坡のお正月だ。あ、声を出さない
で！ 小坡はもう眠りに入ったから！ 人も鳥も動物もみなお腹いっぱいいたべ
てぐっすり眠り、夢の中で花の香りをかいている。

小坡が目を覚ますと、妹の黒髪の上に三、四枚の真っ赤な馬桜花の花びらが落
ちているのが見えた。

.....

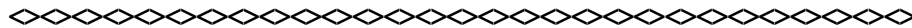
①爆竹の種類。麻雷子：雷のように大きな音を出すもの。雷子、とも言われる。麻雷子の名称
は表面が粗い黄土色の紙に覆われていて麻に似ていたことに由来する。／二踢脚：地面で一度

爆発してロケット状に別の爆竹を飛び上がらせ、空中で再び破裂させる構造のもの。／地老鼠：音を出しながらぐるぐる回るもので日本のねずみ花火に似ている。「地老鼠」はもともと「モグラ」を意味する。／黄煙帯炮：黄色い煙を出すもの。

②タバコ・カード……タバコが流通しはじめた初期のころ、パッケージの補強材として中に封入されていた紙片。後に女性や風景が印刷されるようになり収集の対象ともなった。

③纏足……中国で、女性の足が大きくならないように、小さい時に親指を除く足指を裏側に曲げて布で縛り、足の発育を押さえた風習。清朝滅亡後消滅した。

④辮髮……中華民国になるまで続いた満州族に起源を発する男性の髪型の一つ。頭の周囲の髪をそり、中央に残した髪を編んで後ろへ長く垂らしたもの。



(中国語原文)

(三) 新年

全世界小朋友们！你们可曾接到小坡的贺年片？也许还没有收到，可是小坡确是没忘了你们呀。

小坡的父亲在新年未到，旧岁将残的时候，发了许多红纸金字的贺年片。小坡托妹妹给他要了一张和一个红信封。一只小白鸟撅撅着小黄嘴巴儿，印在信封的左角上。片子上的金字是“恭贺新年”和小坡父亲的姓名。小坡把父亲的名字抹了一条黑道，在一旁写上“小坡”两个字；笔上的墨太足了，在“小坡”二字的左右落了两个不小的黑点儿；就着墨点的形象，他画成一个小兔和一个小王八，他托哥哥大坡在带着小白鸟的信封上写：“给全世界的小朋友。”

小友们，等我给你们讲一讲，小坡所用的“全世界”是什么意思。不错，小坡常说：新加坡就是世界；可是当他写这贺年片的时候，他是把太阳，月亮，天河，和星星都算在内的啊！

太阳上虽然很热，月亮上虽然很冷，星星们看着虽然很小，其实它们上边全有小孩儿咧。——有老头儿老太太没有，不可得而知。你们不是在晚间常看见天上的星星，一闪一闪的好象金钢石那么发亮吗？为什么？就是因为它们上边的小孩们放爆竹玩咧。有时候在夜间，你们听见咕隆咕隆的打雷，一亮一亮的打闪，请你们不要害怕，不必藏在母亲的怀里；那是星星上的小孩一齐放爆竹：麻雷子，二踢脚，地老鼠，黄烟带炮等等一齐放，所以声音光亮都大了一些。他们本来是想：把你们吵醒，跟他们耍笑耍笑去。可是，你们睡着了也不要紧，因为他们也很喜欢到你们的梦中和你们耍笑耍笑。你们梦见过许多好看的小“光眼子”不是？有的还带着雪白的翅膀？对了，他们就是由星星上飞来的。

小坡的贺年片是在年前发的，可是你们不一定能在元旦接到。你看，他的红片儿也许先送到太阳上去，也许先送到月亮上去，也许先在地球上转一个圈儿，那全看邮差怎么走着顺脚。就是先在咱们的地球上转吧，不是也许先送到爱尔兰，也许先送到墨西哥吗？简直的没有准儿！可是，你们只要忍耐着点儿，早晚一定能接到的。

假如你们看见天上有飞机的时候，请你们大家一齐喊，叫它下来，因为也许那只飞机就是带着小坡的贺年片往月亮上或是星星上送的。

还有一层：小坡的信封上，印着个黄嘴的小白鸟，并没有贴邮票；他只在信封的右角上粘了半张香烟画片，万一邮局的人们不给他往外送呢！但是，据我想，这倒不大要紧。邮局的人们不至于那么狠心，把小坡的信扣住不发。他的信是给全世界的小孩儿的，那么，邮局的人们不是也有小孩儿吗？

他们能把自己小孩儿的信留起来不送？不能吧。

所可虑的是：邮差把小坡的信先交给他自己的儿女，他们再一粗心，忘了叫父亲转递。这么一来呀，小坡的贺年片可不一准能到你们手里了。你们应当在门口儿等着，见个邮差便问：有小坡的信没有？或是说：有贴香烟画片的信没有？这样提醒邮差一声儿，或者他不至于忘了转寄小坡的信。

你们也许很关心：小坡怎样过新年呢？也许你们要给他寄些礼物去，而不知道寄什么东西好。

好啦，你们听我说：

小坡所住的地方——新加坡——是没有四季的，一年到头老是很热。不管是常绿树不是，（如不知什么是常绿树，请查一查《国语教科书》。）一年到晚叶儿总是绿的。花儿是不断的开着，虫儿是终年的叫着，小坡的胖脚是永远光着，冰吉凌是天天吃着。所以小坡过新年的时候，天气还是很热，花儿还是美丽的开着，蜻蜓蝴蝶还是妖俏的飞着；也不刮大风，也不下雪，河里也不结冰。你们要是送给他礼物，顶好是找个小罐儿装点雪，假如你住的地方有雪，给他看看，他没有看见过。他听说过：雪是一片一片的小花片儿，由天上往下落；可是，他总以为雪是红颜色的；有一回他看见一家行结婚礼的，新郎新娘出来的时候，有许多人由楼上往下撒细碎的红纸片儿；他心里说：“啊，这大概就是下雪吧！”从此以后，他便以为雪花是红颜色的了。他这样说，妹妹仙坡也自然这么信；就是妈妈也不敢断言雪是白的，还是红的，还是豆瓣绿的；因为妈妈是广州人，也没有看见过雪。

小坡看见过的东西也许你们没有见过，比如：你们看见过香蕉树吗？小坡的后院里就有好几株，现在正大嘟噜小挂结着又长又胖的香蕉，全是绿的，比小荷叶还绿；你们看见过项上带着肉峰的白牛吗？看见过比螺丝还大一些的蜗牛吗？……请你们给小坡寄些礼物吧，他一定要还礼的。也许他给你送

两个大蜗牛玩玩，（这种大蜗牛也是“先出犄角，后出头”的。）也许他给你画两张图。小坡的图画是很有名的，而且画得很快；不过有时候过于慌了，也许把香蕉画成蓝的，把黄牛画成三条腿。请你告诉他慢慢来，不要忙，他一定可以画得很正确很美观的。

新加坡的人们，不象别处，是各式各样的，以脸色说吧，就有红黄黑白的不同。小坡过年的时候，这“各色人等”也都过年；所以显着分外的热闹。那里有穿红绣鞋的小脚儿老太太，也有穿西服露着胳膊的大姑娘。那里有梳小辫，结红绳的老头儿；也有穿花裙，光着脚的青年小伙子。有的妇女鼻子上安着很亮的珠子，有的妇女就戴着大草帽和男人一样的作工。可是，到了新年，大家全笑着唱着过年，好象天下真是一家了。谁也不怒视谁一眼，谁也不错说一句话；大家都穿上新衣，吃些酒肉，忘记了旧的困苦，迎接新的希望。基督教堂的钟声当当的敲出个曲调来，中国的和尚庙奏起法器，也沉远悠扬的好听。菩萨神仙过年不过，我们不知道，但是他们一定是抿着嘴，很喜欢看这群人们这样欢天喜地，和和美美的享受这年中的第一天。

虫儿鸟儿一清早便唱起欢迎新岁的歌儿，唱得比什么音乐都好听。花儿草儿带着清香的露珠欢迎这元旦的朝阳。天上没有一块愁眉不展的黑云，也没有一片无依无靠，孤苦零丁的早霞，只是蓝汪汪的捧着一颗满脸带笑的太阳。阳光下闪动着各色的旗子，各样的彩灯，真成了一个锦绣的世界。

小坡自己呢，哎呀，真忙个不得了。随着鸟声他便起来了，到后花园中唱了一个歌儿给虫儿鸟儿们听。然后进来亲了亲妹妹的脑门儿，妹妹还没睡醒，可是小嘴唇上已经带着甜美的笑意。把妹妹叫醒，给她道了新禧，然后抱着二喜去洗澡。二喜是一个小白猫，脑门上有两个黄点儿。洗完了澡，便去见母亲，张罗着同她买东西去。虽然是新年，还要临时去买吃食，因为天气太热，东西搁不住。母亲买东西一定要带着小坡，因为他会说马来话又会

挑东西，打价钱；而且还了价钱不卖的时候，他便抢过卖菜的或是卖肉的大草帽儿，或是用他的胖手指头戳他们的夹肢窝，于是他们一笑就把东西卖给他了。

在市场买了一大筐子东西，小坡用力顶在头上，（这是跟印度人学的。）压得他浑身都出了玉米粒大的汗珠子。到了家中把筐子交给陈妈——他们的老妈子。陈妈向来是一天睡十八点钟觉的，就是醒着的时候，眼睛也不大睁着。今天她也特别的有精神，眼睛确是睁着，而且眼珠里似乎有些笑意。

父亲也不出门，在花园中收拾花草。把一串大绿香蕉也摘下来，挂在堂中，上面还拴上一些五彩纸条儿，真是好看。哥哥的钱全买了爆竹，在门口儿放着，妹妹用手堵着耳朵注意的听响儿。小坡忽然跑到厨房，想帮助母亲干点儿事。又慌着跑到花园和父亲一块儿整理花草。听见了炮声，又赶紧跑到门口看哥哥放爆竹，哥哥不准他动手，他也不强往前巴结，站在妹妹身后，替她堵着耳朵。喝！真忙！幸亏没穿鞋，不然非把鞋底跑个大窟窿不可！

吃饭了，桌上摆满了碟碗，小坡就是搬着脚指头算，也算不清了。真多，而且摆得多么整齐好看呢！哎呀！父亲还给买来玩艺儿！妹妹是一套喝咖啡用的小壶小碗小罐，小坡是一串火车，带站台铁轨。“到底是新年哪！”小坡心里说。

吃完了饭，剩下不少东西，母亲叫小坡和妹妹在门口看着，如有要饭的花子来了，给他们一些吃，母亲向来是非常慈善的。

父亲喝多了酒，躺在竹床上，要起也起不来。哥哥吃得也懒得动。二喜叼着一个鱼头到花园里去慢慢的吃。小坡和妹妹拿着新玩艺儿在门外的马缨花下坐着，热风儿吹过，他也慢慢的打起盹儿来。

这时候，四外无声，天上响晴。鸟儿藏在绿叶深处闭上小圆眼睛。蜻蜓也落在叶尖上，只懒懒的颤动着透明的嫩翅膀。椰子树的大长绿叶，有时上

下起落，有时左右平摆，在空中闪动着，好似彼此嘀咕什么秘密。只有蜂儿还飞来飞去忙个不了，嗡嗡的声儿，更叫人发困。

风儿越来越小了，门上的旗子搭拉下来，树叶儿也似乎往下披散，就是马缨花干上的寄生草儿也好像睡着了，竟自有一枝半枝的离了树干在空中悬着，好似睡着了的小儿，把胳膊轻松的搭在床沿上。

马儿也不去拉车，牛儿也歇了工，都在树荫下半闭着眼卧着。多么静美！远处几声鸡啼，比完全没有声儿还要静寂。

多么静美！这便是小坡的新年。啊，别出声，小坡睡着了！一切的人们鸟兽都吃饱酣睡，在梦里呼吸着花儿的香味。

小坡醒来时，看见妹妹的黑发上落着三四朵深红的马缨花。

(『中国名家经典童话—老舍选集』 同心出版社，北京，2009，pp. 28—34, .)

